府中市自然環境調査　野鳥　　2022年度3月　　観察場所：武蔵台公園　　観察時間：9時30分～11時10分　　観察担当者　　多田、橋本、宮島

22年度観察数

番号	科	名称 ＼ 天気		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	観察月数	観察数合計
	観察日			13	11	8	18	10	14	12	9	14	11	8	8		
				晴	晴	曇	曇	晴	晴	曇	晴	晴	晴	晴	晴		
1	ｶﾓ	ｶﾙｶﾞﾓ														0	0
2	ﾊﾄ	ｷｼﾞﾊﾞﾄ		1	6	2		1	4	1		2	2	1	1	10	21
3	ｳ	ｶﾜｳ														0	0
4	ｻｷﾞ	ｱｵｻｷﾞ														0	0
5	ｻｷﾞ	ﾀﾞｲｻｷﾞ														0	0
6	ｶｯｺｳ	ﾂﾂﾄﾞﾘ	・													0	0
7	ﾄﾋﾞ	ﾄﾋﾞ	○													0	0
8	ﾀｶ	ﾂﾐ	VU													0	0
9	ﾀｶ	ﾊｲﾀｶ	VU													0	0
10	ﾀｶ	ｵｵﾀｶ	VU								1					1	1
11	ｷﾂﾂｷ	ｺｹﾞﾗ		3		5			3	2	4	1	1	2		8	21
12	ｷﾂﾂｷ	ｱｶｹﾞﾗ	○													0	0
13	ｷﾂﾂｷ	ｱｵｹﾞﾗ	○	1	1	2	1		1	1			1		1	8	9
14	ﾊｸｾｷﾚｲ	ﾁｮｳｹﾞﾝﾎﾞｳ	VU													0	0
15	ﾊｸｾｷﾚｲ	ﾊｸｾｷﾚｲ	VU													0	0
16	ﾓｽﾞ	ﾓｽﾞ	VU											1	1	2	2
17	ｶﾗｽ	ｶｹｽ														0	0
18	ｶﾗｽ	ｵﾅｶﾞ	NT	9	7	8			2	2						5	28
19	ｶﾗｽ	ﾊｼﾎﾞｿｶﾞﾗｽ		4	4	2	2	3	10	6	9		1	2	3	11	46
20	ｶﾗｽ	ﾊｼﾌﾞﾄｶﾞﾗｽ		11	7	6	8	11	11	7	10	12	7	8	11	12	109
21	ｼｼﾞｭｳｶﾗ	ﾔﾏｶﾞﾗ	○						1		2	1				3	4
22	ｼｼﾞｭｳｶﾗ	ｼｼﾞｭｳｶﾗ		21	11	22	7		13	13	16	24	4	2	21	11	154
23	ﾂﾊﾞﾒ	ﾂﾊﾞﾒ		2	3	3	3	1								5	12
24	ﾂﾊﾞﾒ	ｲｴﾂﾊﾞﾒ	NT													0	0
25	ﾋﾖﾄﾞﾘ	ﾋﾖﾄﾞﾘ		28	16	18	22	7	2	23	28	25	24	28	13	12	234
26	ｳｸﾞｲｽ	ｳｸﾞｲｽ	○			3	2	2			4	2	2	2	3	8	20
27	ｴﾅｶﾞ	ｴﾅｶﾞ	NT	6	4				15		16		4		6	6	51
28	ﾒｼﾞﾛ	ﾒｼﾞﾛ					3	2	4		34	5	16	9	9	8	82
29	ﾑｸﾄﾞﾘ	ﾑｸﾄﾞﾘ			17	2	2	3								4	24
30	ﾋﾞﾀｷ	ｼﾛﾊﾗ		1									1			2	2
31	ﾋﾞﾀｷ	ﾂｸﾞﾐ													1	1	1
32	ﾋﾀｷ	ﾙﾘﾋﾞﾀｷ														0	0
33	ﾋﾞﾀｷ	ｼﾞｮｳﾋﾞﾀｷ									2					1	2
34	ﾋﾞﾀｷ	ｺｻﾒﾋﾞﾀｷ	VU													0	0
35	ｽｽﾞﾒ	ｽｽﾞﾒ						3								1	3
36	ｾｷﾚｲ	ｷｾｷﾚｲ								1						1	1
37	ｾｷﾚｲ	ﾊｸｾｷﾚｲ											2			1	2
38	ｱﾄﾘ	ｱﾄﾘ														0	0
39	ｱﾄﾘ	ｶﾜﾗﾋﾜ														0	0
40	ｱﾄﾘ	ｼﾒ											1			1	1
41	ｱﾄﾘ	ｲｶﾙ	NT										12			1	12
42	ﾎｵｼﾞﾛ	ﾎｵｼﾞﾛ													1	1	1
43	ﾎｵｼﾞﾛ	ｱｵｼﾞ														0	0
延	月	／	年	11	10	11	9	9	11	9	11	8	14	9	12	25	

ムクドリ

ヒヨドリ

ガビチョウ幼鳥

コゲラ

ヤマガラ

餌を樹木に埋め込むヤマガラ

ジョウビタキ

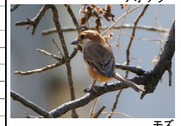
シメ

イカル

エナガ

アオゲラ

メジロ


モズ

ホオジロ

月	22年度コメント
4	手入れにより林床が明るくなった。よく日が降り注ぎ、春の豊かさが感ぜられる。初っ端からアオゲラ、ガビチョウの大きな鳴き声を確認。多数のオナガ、ヒヨドリ、シジュウカラ、カラス及び少数のコゲラ、エナガを確認。緑色低木の茂みにシロハラ(冬鳥)確認。上空にツバメ、種不明の猛禽を目視。ウグイスは確認されなかった。
5	囀りは先月よりは少ないように感じるがシジュウカラとガビチョウはよく鳴いていた。ヤマザクラの若葉の中に羽をばたつかせる個体に遭遇、巣立ちしたばかりのヒヨドリの幼鳥と見守る親鳥のようだった。ヤマザクラのキツツキの穴が深くなり、下方にも掘り進んでいるように見えた。オナガの幼い声がきこえた。
6	シジュウカラの幼鳥の声が数か所で聞こえた。子育ては順調のようだ。アオゲラの声も2か所で聞こえたが、姿は見つけられなかった。ウグイスの囀りも3か所できこえたが、ガビチョウは6羽観察された。その中には、虫を咥えて運んでいるものもあった。残念ながら、この公園内で営巣しているようだ。
7	残念ながら、外来種であるガビチョウの幼鳥を目の前で2羽確認した。嘴の色や背中の羽根などに幼さがが残り、歩行は両足でジャンプするホッピング、足が長く、尾羽も長かった。地上での餌取りの真っ最中でした。一方のウグイスは2羽のさえずりを確認した。アオゲラの巣穴は、さらに大きくなっていて、入口付近に木くずを確認した。
8	日差しを避けているのか鳥の姿が少なくかった。繁殖期の囀りがぐっと少なくなったのにウグイスが時々声を響かせていた。対抗するようにガビチョウの声が聞こえた。ハシブトガラスが松の枝にとまり、口を開けて、体温調節している姿が見えた。ヒヨドリは親子なのか2羽で共に飛び回っていた。ツバメが上空を旋回していた。
9	久しぶりに、混群(コゲラ、ヤマガラ、シジュウカラ、エナガ、メジロ)が見られた。なかでも、ヤマガラは武蔵台公園で、今季、初見であった。アオゲラの声を数か所で確認。笹薮を広範囲で刈ったためか、今季、毎月、確認されていたガビチョウの存在の気配は無かった。同時に、ウグイスの存在も確認できなかった。
10	大きなドラミングの音とアオゲラの鳴き声が認められたが、姿は確認できなかった。メジロやエナガなどの期待される小鳥は確認されなかったものの、コゲラやオナガのほか、畑にてキセキレイが目撃された。多摩川方面から遥か上空を横断する種不明の猛禽が一個体認められ、その様からミサゴと推測されたが定かではなかった。
11	シジュウカラ、エナガ、メジロの混群に3回出会え、時にはヤマガラ、コゲラも観察できた。メジロは、植物のムラサキシキブの実に集まっており、10数羽のグループで行動していた。猛禽類には2度出会えたが、オオタカは武蔵台公園では初認であるが、もう1羽は種を同定できず残念。ジョウビタキ♂♀の2羽を初認。ヤマガラが餌を樹木に埋め込む動作時にドラミングのような音を発した。同一行動のガビチョウ一家5羽を確認。
12	ヤマガラが現れ、人の気配をものともせず、近くまで来ていた。ときどき混群が現れたがエナガが確認できなかった。ムラサキシキブの枝にシジュウカラ、メジロが良く止まっていた。閉鎖地から盛んにドラミングが聞こえていたが、姿が見えず、種の特定ができなかった。繁殖行動と考えられる。藪を好む冬鳥が現れていないのが気になる、注意して観察していきたい。
1	イカルが集団でエノキの実を食べているのが観察できた。府中地域で1月にイカルを観察できるのは珍しい。シメ、シロハラを観察した。冬鳥も少しずつ観察できるようになったが、まだまだ少ない。アオゲラのドラミングと鳴声が数回聞こえたが、姿を見つけることはできなかった。ヒヨドリは相変わらず多かった。メジロも多く、常緑樹の中を飛び交っていた。
2	ハシブトガラスの鳴き声と、ヒヨドリの鳴き声が目立ち、シジュウカラ、メジロ、コゲラを散発的に確認したが、混群には出会えず。学童裏のフェンスの上にモズを確認したが、今季初認。
3	アオゲラがイヌシデの生木を突いている音が今まで聞いたことが無い重低音であった。シジュウカラがけん制しあう姿が見られ、繁殖行動と思われる。ウグイスも囀り始め、離れた場所でも囀りが聞こえ、、複数の営巣が予想される。テニスコート脇でツツジの植え込みの中から飛び出した鳥が有り、写真判定でホオジロと分かり、この場所では初認種。冬鳥はツグミが1羽のみであった。

注1：表の最下段は月ごとの観察種数と年間の観察数。
注2：名称欄記号は、2020年度東京都レッドデータ、北多摩のカテゴリー表示。

外来種

観察月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
ｶﾜﾗﾊﾄ									11		8	8	14
ｶﾞﾋﾞﾁｮｳ		4	3	6	3	4	0	3	5	1	1		
ｿｳｼﾁｮｳ													
ﾎﾝｾｲｲﾝｺ													

レッドリスト表示について

名称欄に東京都レッドリストのカテゴリー表示を行った。カテゴリー表示の条件を以下に示す。

2020年版　東京都レッドリスト
対象地域　北多摩の評価による

カテゴリー名称	表示	基本概念
絶滅危惧ⅠA類	CR	ごく近い将来における野生で絶滅の危険性が極めて高いもの
絶滅危惧ⅠB類	EN	ⅠA類ほどではないが、ごく近い将来における野生で絶滅の危険性の高いもの
絶滅危惧Ⅱ類	VU	現在の状況をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のランクに移行することが確実と考えられるもの
準絶滅危惧	NT	現時点での絶滅危険度は小さいが、生育・生息条件の変化によっては「絶滅危惧」としての上位ランクに移行する要素を有するもの
ランク外	○	前回2010年版に掲載されていて今回の改定によりレッドリストから外れた種
非分布	・	主要な生息地でないという理由から対象外とされた種